

本明川の河川整備

【本明川河川整備の基本的な考え方】

本明川は河川整備（引堤、河道掘削等）とダムにより、昭和32年7月の
 諫早大水害規模の流量を
 安全に流せるようにする計画です。

※（基準地点裏山 1,070m³/s）

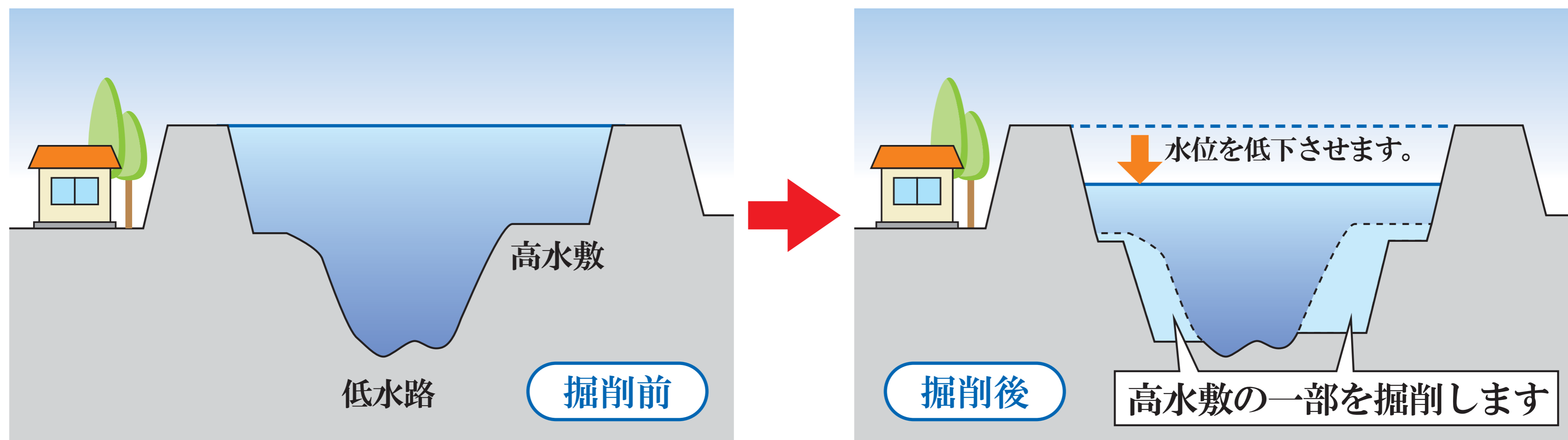
■平成17年度以降進めている整備内容



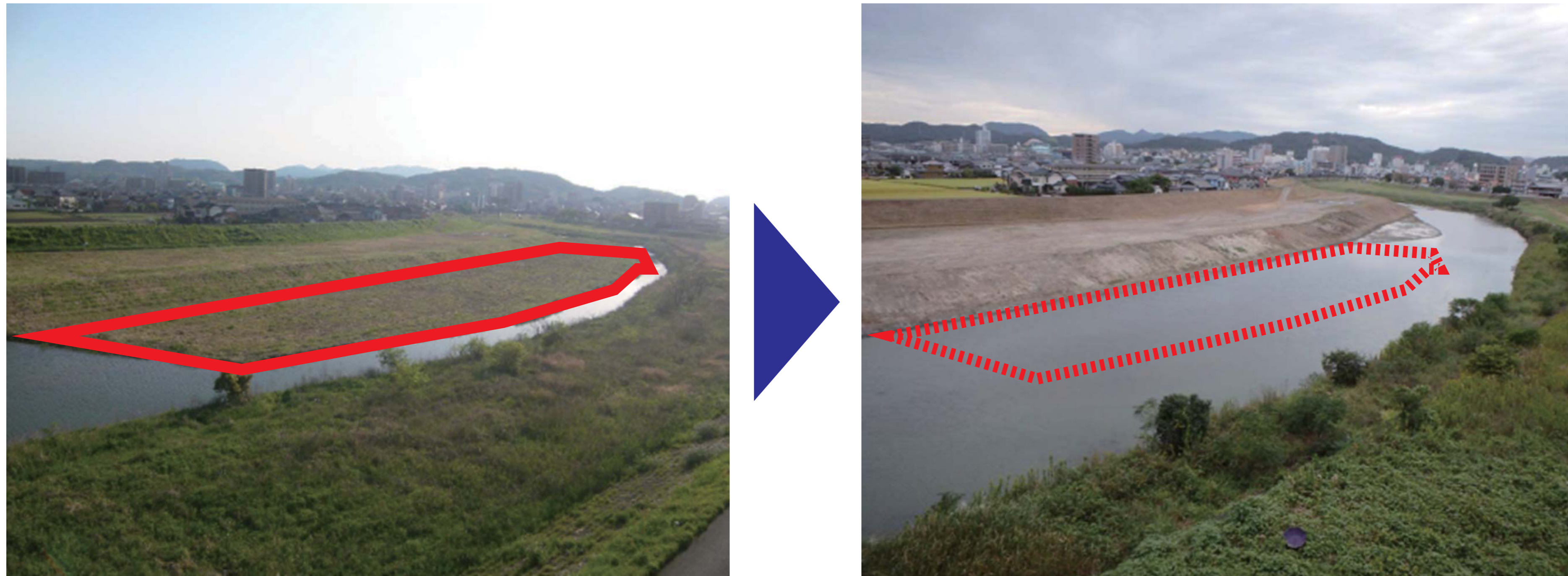
本明川の整備内容と効果①

■ 河道掘削

流水を流下させる部分を河道と呼びます。河道は通常時に水が流れている低水路と、洪水の時だけ流れる高水敷に分けられます。この河道内を掘削し、整備することを河道掘削といいます。これにより洪水時における水位の低下を図ります。



■ 本明川中流部での整備



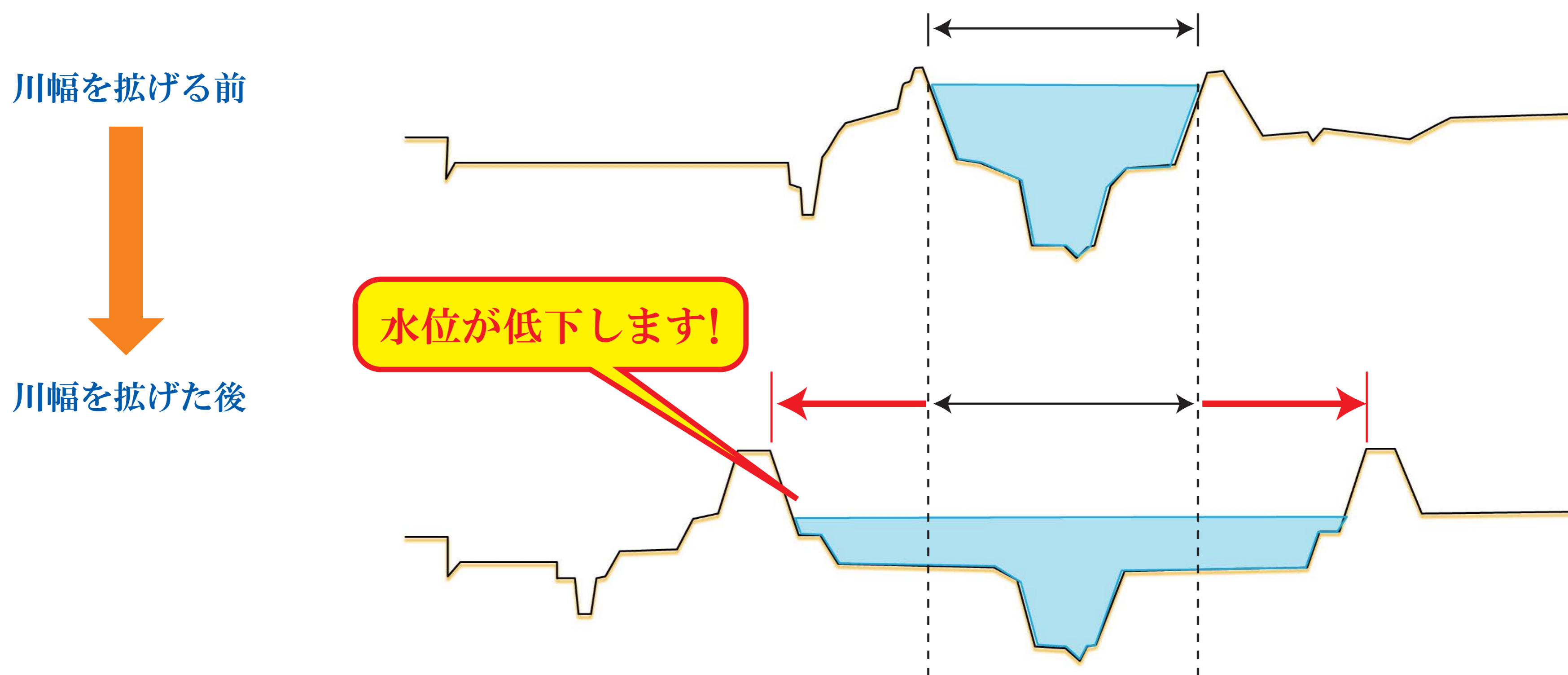
整備の効果

掘削により、河川の断面積を広げることで、洪水時の水位を低下させます。

本明川の整備内容と効果②

ひき てい ■引堤

たくさんの水を流せるように堤防をつくりかえ、川幅を左右に広げることを引堤といいます。これにより洪水時における水位の低下を図ります。



■半造川での整備

整備前



整備後



整備の効果

堤防を川裏（住宅や田畑）側に引き、川幅を広げることにより、洪水時の水位を低下させます。

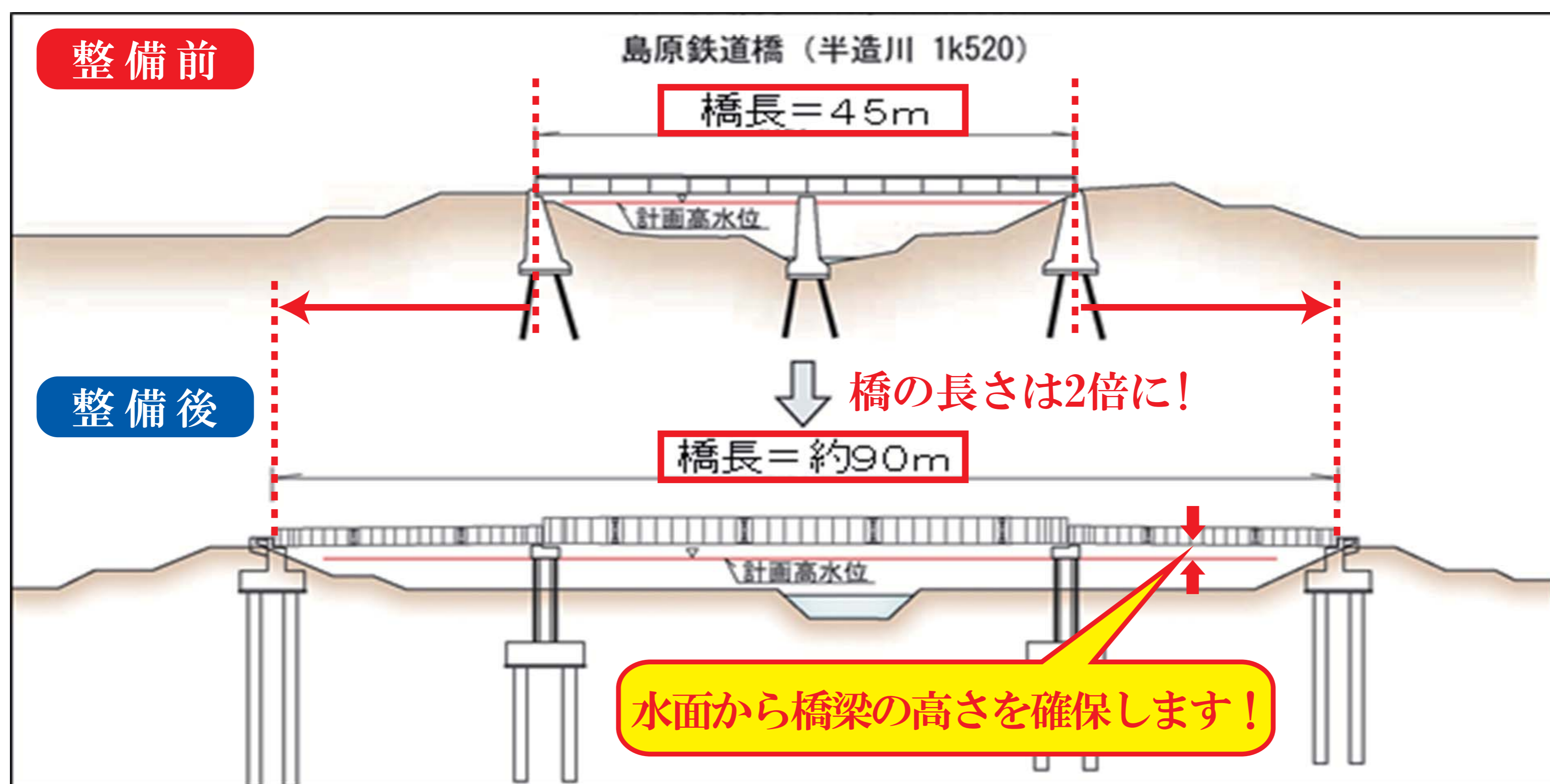
本明川の整備内容と効果③

きょうりょう かけ かえ

■橋梁架替

たくさんの水を流せるように、引堤にあわせ、短い橋を長い橋に架け替えます。これにより洪水時における水位の低下を図ります。

■半造川での整備



整備の効果

橋梁架替により、河川の断水面を広げることで、洪水時の水位を低下させます。